



明治九年  
子七月序之  
職林秘識行卷之六

~ 13  
4012  
4



13  
4012  
4

賊禁秘誠修卷之七六

一 於若所誕生、身、秀、河、公、忍、心、事

附、本村常陸、即、依、所、城、忠、入、支

一 本村常陸、即、心、川、之、郷、と、頼、む、事

附、心、川、之、郷、官、位、と、重、し

一 園、自、秀、河、公、心、川、と、有、る、事

附、心、川、之、郷、官、位、の、錦、と、頼、む、事

一 心、川、之、郷、之、郷、の、香、姫、と、監、取、り、事

附、仙、心、房、田、心、川、之、郷、と、揮、し

賊禁秘誠修卷之七

一 於若所誕生、身、秀、河、公、忍、心、事

附、本村常陸、即、依、所、城、忠、入、支

一 園、自、秀、河、公、心、川、と、有、る、事

一 本村常陸、即、心、川、之、郷、と、頼、む、事

一 園、自、秀、河、公、心、川、と、有、る、事

一 本村常陸、即、心、川、之、郷、と、頼、む、事

一 園、自、秀、河、公、心、川、と、有、る、事

一 本村常陸、即、心、川、之、郷、と、頼、む、事



昭和14年7月1日  
齋藤俊六氏贈



が己より天下を望むの存方ども大國の比在せのるを可  
く後世の爲に後より起さと思はれ亦次公方を而さ  
と後世に起るる大國の自他を其心誠せぬる者  
次公も大國の秀頼所誕生の後述の天下に備ふ  
事とまゝに所此持臣の事六角義太細川之敵  
ホいさあさるる所此所なく跡を大國に禮つる事  
大國も此立腹方同くも亦次公返居の所の後成  
也不田に成手と也と能く亦次公とせり走ば亦  
次公志忠の家と大國の跡目と成國白鼻と志

兄の今更返居と何面目なるかとや急ぐ木村常  
陸助とあれ斯の候子雲白亦形は其の候は不詮我  
かは安徳とて、重なり、事すれば今の内は信心と也を  
天下を保せん候と申す事と志めんと作方れば木村  
政より私事、父年人依と遠く大國の忠に、お計程如  
不の所情候く、高村、拾八万と、候、執権の列、如、是  
有る患、山海と、と、報、事、此、初、可、之、違、以、事、也  
推察は、此、事、所、父、の、事、が、あ、れば、目、と、事、と、候、候、候、候、思  
案、く、この、孫、在、いと、忠、誠、を、取、事、言、と、亦、次、公、言、る

其言亦為命を捨てて白をせぬと新し  
所仰一命をえ奉るる事と云ふは其の  
所仰公を云ふ所を意なくして作し  
公程りたる言を思ふ樹をたす  
所程新し思入人として害を  
を害する事と云ふ程の程思ふこと  
殺 我曰信玄親を退散せしむる  
例も有初成  
ゆを是程に不及偏程と仰し  
常程助思極め  
るるはつと程程 湯言とせし  
る良方と申

りとの言法をいひたる今言白と成り  
大用所厚忠尚時以父のる心  
是 湯言しをて斗略に格別  
大用換と別所至人同  
為私をた祈存る及所  
程程方と申し 湯  
孫ををれし事取次公  
思と云つて思をする  
かたを父  
いふと云ふゆをた  
存かたは事取次が  
運命する所  
大用の得る得ず生害  
る及 女信と云ふ  
目  
も血をいふのゆを  
た村も是尚いし生害  
し海左程  
近也かたのゆを  
事取次命を是と云  
ふ事

市岡君と云ふ事ト之別中といと格別な所忠家  
素名の減元吾々下んておれいふも云云路  
半人門生書く事と幾まも思ひあむと云ふ  
と云言上は来り汝云と云所親者方へ飛角其言  
頼り首尾能は有せりといふと作と信て本村書信  
脚私尾一節り又も忠業及びりか石田を知然大岡の  
以信とて来り汝云と云と云と彼亦お信も同ト云  
君たすれば素名の祖父といふも我々来り汝云の執持  
成る向新云と云岡と云ひり下と云と云と来り汝云

等其之を腹をわめいといふと云と云岡と云と云  
と云と云と云 素名も向我用要のり方二三日他  
其れは其身心なるを去而の所用をれば信一人  
吾用して於此方心願あるも本村唯美人と云  
けり所前朝鮮の戦ひ日中物と云付勝あま  
と云挿ると朝鮮王命ありと云竟と云の形  
と初勝の使来一先和義及びれたいまだ軍勢  
引取すと云と云と云所親者方へ本村と云  
所減元忠入何々く此危の向入と云と云と云

まゝの村所、煉所を伺へる。其夜、伏見  
所越方を上げ、以て存ふ。成るに、残るやと引く。  
まゝ、伏見に越え、所蔵へ出入せり。伏見の所  
敷、大岡後、その夜、その大勢の所、家人  
御もあす。別、その所、同の夜、その所、煉所の  
眼をくづり、和、その夜、その所、煉所の  
去、御、以、安く、所、法、連、出入、伺、見、れば、大岡、以、煉  
所、の、所、い、び、雷、の、お、く、村、に、お、り、と、所、の、煉、所、へ、行  
足、踏、とい、へ、る、に、抱、え、あり、と、湯、の、湯、着、る、を、お、り、の、は

大岡を移せり。其の夜、出入、と、名、一、た、り、名、も、来、と、入  
者、の、り、の、所、の、り、取、あ、ま、ま、と、し、て、は、所、の、法、の、煉、所、の、湯、  
は、云、及、ず、以、例、の、元、中、我、も、く、所、の、法、の、同、一、馳、来、本  
村、に、七、株、と、い、ふ、と、り、来、る、を、強、制、し、て、送、り、お、り、利  
所、敷、に、徳、土、焼、火、を、取、て、錢、長、方、を、横、河、若、原、の、夜、は、云、  
及、ず、所、敷、の、く、め、く、と、い、ひ、し、る、も、怪、あ、ら、ま、り、と、す、り、入  
同、ち、の、所、の、法、生、か、ら、れ、ば、え、の、に、煉、所、へ、入、り、お、り、煉  
所、の、所、の、例、の、元、中、夜、的、に、守、護、し、て、お、り、と、い、ひ、し、る、感、  
所、番、が、あ、ら、ま、り、と、宗、皇、帝、の、傳、張、河、今、川、家、の



子の水居のふたをわし河洗入れば香の成る  
る威下のふ其方成六を垂思入いふを將層  
思量ハいつをれも其候を香解方ていりて  
ひ意を違んますしと作ければ本村やむるに  
思の淵のひい者受重の賢者方とも安く入い  
彼の香解を淵をぬらひすし候に當時思の淵  
の名人とりハ私が師匠公川の邊に彼より後候  
なげ之香解をてふと候もいんも知れ候云々  
彼ハ生れ候候故増よといハ私が頼るを中て候

ふたりとてし河洗家人ハ抱りれに言へ願也  
民うとていし河洗は之言河洗身木をハ給いハ  
仕度一と言ふしければ此言を成候せしと下家  
者なれば也何程もを言ふと斗ハ言と作ある  
本村也いし言を夫とて候也

本村公川の邊に河洗を頼む事  
河洗公川官位を重む事

新ら本村の邊に河洗あり其自業を以候に思先  
の邊に言ふをいし公川の本村のふたを成る所



合西例の心は病氣と傳入事す傳ふ  
村伝を連す唯一人の傳入の傳の宛は對  
西の心四方山の物語共之を村中けるは  
度も永く乃浪人等の事あり存主君沙傳中如  
河車石抱んと考く及手紙に沙傳中の中  
以重いふ成事ぞ心重く其所作夢を傳ふのは  
此所取持中といふは國の夢を以て此心入不淺  
利の事此國白の位を教多ふ不名を幕下  
と云ふは所家事といふはくは此の今又の傳

幕

と傳ふらんといふ細らんえ事仕女と重め葉  
は美沙世法所無用といふことよ返音  
亦村のつととお笑あゝそ人間入る者重なり  
といふはこれ古歌にもあるは心といふは  
又二つは白の六つりのせやと申を仕官の飛も  
角も外に沙聖の節りなりを記方より沙  
頼度子細も何の号と叶くは當時國白の  
威勢の成り及夜の顔ひ思ふに叶んと云ふは  
皆之を二つと云ふと云ふは同前の事也

河以の國門と河に於て皇成や素が能は是一通  
ゆゑの斗是ハ世を度し物更いりれば別と能  
らるゝふ及昔時養平の所氏なれば世漸いたく  
さる素所極方々何ぞ中まは能わんかやうの義ま  
そ度取存の之を執控するに身並は河にそ何  
成を皇と叶んと述と所は人の素を新し物之  
の命と所を所皇と見しつゝふは一命と述  
之能んかまのそ述能んと申すは利はてむの  
事之左能く成るもそふり口外もゆゑと

河得ふ云てハ物名おまがたハ 大中通重人の頼  
以能知なまはばそ度の所皇いふ横成節とも取  
斗し中まはと能く余義なまは云ひる大い富のそ能  
打らなまはと能く物名を皇と申すは遠背は成り  
も渡人れ素なれば能くはそを公ハ大なる執  
控職なればふしに能くは其之を大所はまらうか  
つゝ口外もわらぬふそ老之は素が皇と云は官  
位ハ中將言能之を冠將家東棟度皇所系由來  
能んか順此合銀と能くは山に後んでも皇は能

少くも亦村より一驚きと存ありぬは是を百公  
より千公千公より百公とさき文と皇世の中を  
友徳と成りて天より公に敷之人格或は  
この事と云ふ所より内雲の之より武士の或  
り皇へと成るものも夫の知所を以て威と成り  
引たる如く成るも武門の兵目子孫の榮は領地を  
皇は官位と何れも合志の海に之の所不存聖  
祖心門に成りて友徳と成りて内雲部の所  
聖と云ふ所とするは内雲部からくは亦公に成  
官位と皇より合公の成度と云ふ何れも中  
言は之の友徳と成りて其将家と云ふ内  
是入十二の所の内を見之公の時と引きあり  
女房より人皇我我年公に成りて其母の  
御も及ぬ内雲官位と云ふ所は思ふ所の  
よ斗れんと夫の友徳と皇より成りて思ふ所の  
事と成りて其の魂浪人なりと云ふ榮耀榮花と  
と云ふ所は是の十二の所と女房とせば一生の思  
出當年か一年と云ふ命ありぬ榮花の仕納也

たす叶はいか成所用成ともお節んと物終て来  
村接子とありや河原是他人のぬかとしり屋を  
反の顔ひいふ命よりくも取持し 名を去る反  
以好し通しお友江の成と武家の行へ成りとい  
とも園白公の事なれば誰か奏安のうや河原  
た所をいふおありし 河原中一度一件の私宛よ  
て河原中人屋敷へ入来ぬといはれぬと書  
お美直よ信へお村ヶ宛へ来ぬは河村の書  
るまを所いさるるの所敷光河原もて不

と逸言と一 ぬ書つて空とやこれば更の成公  
勢のふぬとて成屋を本部格別節目毎  
と官位昇進の成を禁屋へ海も徳作の思と  
く是斗と成りしと仰られればお村中へおと  
忘とも存せし河原又お園白よとせぬ  
とくお老しぬと長林云よ昇進の答筋目無物  
河原お書しぬとぬぬぬと下の中し河原は  
を急よふ及てぬと書しとぬぬぬ河原目んぬ  
作付彼がや成終のくは官位のとと河



沙無念の作心川の邊つたをト案ト國白の所  
高徒之類の法を重てめつた顔の趣安者として  
追て沙汰す人 誠者として身法をハ本村安知  
ト由下ト云云之常陰即最りて國白ト向所航の  
件余の義と何とす君國白の法を分何とて思ふ  
は名ぬまなり といふ所又大國の法は彌の香餅  
と名ぬまると名ぬまの度沙不屋方といふ遊下  
ト云々大國の女色を好む之思ふ叶ト云々  
いふ成を意を情ト云々ト云々 善心の香餅外

ト云々の長他人の善と成と心ト云々ト云々思ふト通  
所重方とも思ふト云々の善ト邊取めくト云々ト  
身法作身は友沙無念の善の彌と云々ト云々  
入といふもと思ふやト云々ト云々ト云々ト云々  
の香餅もト云々 忽大國目と云々ト云々ト云々  
法儀嚴重<sup>教</sup>中ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々  
能の狀ある善物友邊の所を方善と云々ト云々  
おそく所ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々  
新ト思入ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々ト云々

顔も遠く<sup>ユキ</sup>と走ると知らずやあれはよの國の邊を  
河のうらと存せし<sup>ヨ</sup>夫ハ秘教重宝の義を去な  
うと忠一通り<sup>ハ</sup>本村辰辰<sup>ハ</sup>通<sup>リ</sup>了<sup>リ</sup>鉄城石川と  
云々<sup>ハ</sup>鐵<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>香<sup>ノ</sup>解<sup>ノ</sup>者<sup>ト</sup>を<sup>ハ</sup>後<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>更<sup>ハ</sup>ハ<sup>シ</sup>例<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>せ<sup>ク</sup>  
た<sup>ク</sup>名<sup>ヲ</sup>名<sup>ヲ</sup>夫<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>な<sup>リ</sup>工<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>成<sup>リ</sup>が<sup>シ</sup>と<sup>ハ</sup>志<sup>ヲ</sup>一<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>ろ<sup>ヲ</sup>  
本<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>出<sup>ル</sup>の<sup>ハ</sup>安<sup>キ</sup>手<sup>ノ</sup>入<sup>リ</sup>成<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>思<sup>フ</sup>く<sup>ハ</sup>秀<sup>ハ</sup>治<sup>ス</sup>云  
の<sup>ハ</sup>所<sup>ヲ</sup>も<sup>ハ</sup>方<sup>ヲ</sup>も<sup>ハ</sup>之<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>教<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>秘<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>  
取<sup>リ</sup>持<sup>テ</sup>た<sup>リ</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>本<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>に<sup>ハ</sup>候<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>や<sup>ハ</sup>石<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>  
と<sup>ハ</sup>志<sup>ヲ</sup>一<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>ろ<sup>ヲ</sup>の<sup>ハ</sup>國<sup>ノ</sup>白<sup>ノ</sup>殿<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>成<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>個<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>な<sup>リ</sup>を<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>ハ

や何成ると云ふは<sup>ハ</sup>之<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>蜀<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>神<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>  
包<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>ば<sup>シ</sup>者<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>安<sup>キ</sup>手<sup>ノ</sup>入<sup>リ</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>  
神<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>目<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>女<sup>ノ</sup>く<sup>ハ</sup>方<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>守<sup>ノ</sup>か<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>少<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>  
と<sup>ハ</sup>名<sup>ヲ</sup>命<sup>ヲ</sup>す<sup>ハ</sup>是<sup>ノ</sup>斗<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>國<sup>ノ</sup>白<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>所<sup>ヲ</sup>も<sup>ハ</sup>方<sup>ヲ</sup>も<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>  
い<sup>ハ</sup>ば<sup>ハ</sup>本<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>候<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>成<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>流<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>思<sup>フ</sup>の<sup>ハ</sup>例<sup>ヲ</sup>  
の<sup>ハ</sup>所<sup>ヲ</sup>能<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>石<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>辰<sup>ノ</sup>辰<sup>ノ</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>候<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>後<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>更<sup>ハ</sup>ハ<sup>シ</sup>例<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>せ<sup>ク</sup>  
と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>候<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>後<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>更<sup>ハ</sup>ハ<sup>シ</sup>例<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>せ<sup>ク</sup>  
秀<sup>ハ</sup>治<sup>ス</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>候<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>後<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>更<sup>ハ</sup>ハ<sup>シ</sup>例<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>せ<sup>ク</sup>  
軍<sup>ノ</sup>測<sup>ノ</sup>武<sup>ノ</sup>勇<sup>ノ</sup>者<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>候<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>後<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>更<sup>ハ</sup>ハ<sup>シ</sup>例<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>せ<sup>ク</sup>

所費は方りれば心國の改をて物とあつた  
取ら私法を法と強しよ由國をく海  
すのこけり流る徳成とて妻子もも贈ふさ  
そふれども重く友とてとて言者徳公  
怨を以て方てけりつた箱ははふあふと  
縁月もも蜀知の錦の孫母儀と取らふ之由今  
中条錦と名稱て香折え来ふとの中錦と云  
邊や角渡りの錦是とのわふ心國の其後徳合  
は仕換とゆつて命とあつて盜賊と成てお果

師頼のそ文ひは後を口外へ出べつた  
勝成とも之程いら鳥の家と名へる心川に國の  
門の子源深人志を致す一上人の形ひひる之を  
魂をもとらふすこむる言とす香折徳公の威  
おぬいさきこころをあらふ大を以て徳公の  
そふ心國の養ふと成中條言ひは徳公の  
中條將家未當なる徳公とてえす徳公の  
御と以て徳公とす心國徳公とす心國  
作のそより本村法徳とす心國利未心國の度



蓋し事として小川が前より名を置かざりて鳳とつらとある  
載る所は公重て是の後ちなみ名も改て小川  
中村と改門と名乗りし事此の一字とあるなり  
と作是に公鳳の自悦殘方なりは行あるは皇  
と小川方廿の内ありはのめを系は此物衆の通  
禁庭一巻多しと公重と成て系が教年の皇  
と違ふと行世もつらくも際め程は残入んと  
流るる鬼將家兼兵部少輔と奉詔とある  
らくの所殿と退事我が居るとありあり

小川公鳳の御香炉盗取事

附 仙公落田小川と捕らむ

物も小川の鳳は是に後ちのち恩施盗となく  
業をて徳ふと思ひは換とといふも云儀は盗  
盗賊の護中なり瓦更た志る人更なり 而して度  
おもはれも其の公の所家入となく中村と改せられ  
此の公重なりと名も掛たる皇の十二の后の内を  
探取して樂ん香炉と名なりは此書の内より  
今有依之なり香炉盗取名其の公重

其と公女と成てくらすと一途の思は流し入て大佛  
の妻を是と依てくらすと急なる徹りたる處に之  
從、山面より馬の家ももてある礼せよとて四を  
一と此もすべしとありと此流過の長代となり  
ひのぼりたる海とてまよひし洲内大國衆の吉公依て  
所居有之以て其村に居る一思入りて一箇の思  
物有と一入法用公處を公田に奉折とてわく  
是亦の長下の業をよんて捨てしむる夜に公衆  
及た徒擡なるひのぼり之共依てて坐したるひのぼり

池の無之種ずの妻も人を語り寃竟の侍とも種ず  
の政も作身形と一昼夜の結むる其夜に之とあり  
仙公槍を國なる種の際とて武拾八人の種をて母  
儀一服とくそり相あり不敵の公之處に安と此  
殿一思入法次の名一奉りてひのぼり仙公を初事人  
知り次はありせんとある處に居ると伺はれは之國  
所居なりとて一法種えの獨の香折なりぬる家中  
一神の深御儀とありと投ひのぼり思ひは種  
ひそつるす香折一まつは御ひのぼりそつ入と擡是

て清長なる一忠入莫く富平の神の威徳より名香  
作といふ者をもさすいふと相傳はる香炉を抱  
きうとせしが不圖の所「藤原」に打孫誠  
日本おひむやくよりききもせとてすもの殺志の事と  
之れ公教松平系云傳が草履取より今天下の皇  
國向土政土長土國近成りす古今を例を  
さす一人といつ傳我治皇賦の渠中を思ひ叶  
もと云まなり「榮花榮耀を憐るといふ波」及び  
といふおの香炉之も入といふ公々と成て林を

よ思ひし。能也 十二の辰を妾とが 神神ともつて  
中朝の神宮に程し神意を奪く帝王の位に  
昇り日女と巫人と呼んり時宮、次以る丹后町一  
入時をさえていへ云富友今我治公分中朝云傳  
よまはし、まろそ友位傳、不圖の所側、近月心の傳  
まてなりおをさすよも成り、さ志を何、次既平  
親彼、毎將の公傳と巻をそ我の言、目見とてせん  
池あるの屋を記し、司は授是、そまある、次ある  
よ仙とて、い、め、初多のふ、麻の妻、い、成り、よ、眼、





張るはとるをひのち同すし和家<sup>に</sup>の藤原<sup>に</sup>出入りす  
常の盗<sup>に</sup>非<sup>ず</sup>家<sup>に</sup>書<sup>せ</sup>ことのみ成<sup>す</sup>しうそ我<sup>は</sup>是<sup>を</sup>  
思入<sup>り</sup>の事<sup>に</sup>し<sup>て</sup>い<sup>ふ</sup>こと言<sup>ふ</sup>濁<sup>の</sup>香<sup>の</sup>非<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>ある<sup>に</sup>友<sup>に</sup>  
と<sup>り</sup>く<sup>に</sup>進<sup>め</sup>し<sup>て</sup>い<sup>ふ</sup>今<sup>も</sup>言<sup>ふ</sup>限<sup>り</sup>言<sup>ふ</sup>と<sup>り</sup>ぬ<sup>み</sup>み<sup>の</sup>  
そ<sup>の</sup>志<sup>の</sup>手<sup>を</sup>入<sup>り</sup>と<sup>り</sup>ぬ<sup>す</sup>と<sup>り</sup>波<sup>の</sup>非<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>み</sup>ぬ<sup>み</sup>  
と<sup>り</sup>言<sup>ふ</sup>は<sup>い</sup>素<sup>が</sup>秘<sup>藏</sup>也<sup>に</sup>濁<sup>の</sup>非<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>み</sup>ぬ<sup>み</sup>  
懐<sup>か</sup>ふ<sup>に</sup>い<sup>ふ</sup>者<sup>の</sup>新<sup>持</sup>也<sup>に</sup>こ<sup>の</sup>細<sup>を</sup>い<sup>ふ</sup>し<sup>て</sup>言<sup>ふ</sup>ま<sup>あ</sup>れ  
濁<sup>の</sup>濁<sup>の</sup>非<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>み</sup>ぬ<sup>み</sup>と<sup>り</sup>他<sup>の</sup>言<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>つ<sup>て</sup>錦<sup>と</sup>も<sup>も</sup>  
お<sup>も</sup>す<sup>る</sup>友<sup>の</sup>濁<sup>の</sup>香<sup>の</sup>非<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>み</sup>ぬ<sup>み</sup>と<sup>り</sup>何<sup>の</sup>思<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>と<sup>り</sup>

乃<sup>は</sup>内<sup>心</sup>田<sup>に</sup>は<sup>い</sup>ふ<sup>言</sup>の<sup>事</sup>也<sup>に</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
新<sup>の</sup>非<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>み</sup>ぬ<sup>み</sup>と<sup>り</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
と<sup>り</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
思<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
見<sup>る</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>言<sup>ふ</sup>  
長<sup>の</sup>本<sup>の</sup>内<sup>心</sup>藏<sup>の</sup>人<sup>の</sup>心<sup>の</sup>川<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>其<sup>の</sup>言<sup>ふ</sup>何<sup>の</sup>も<sup>も</sup>新<sup>の</sup>言<sup>ふ</sup>



上摩郡第拾貳區

增富村神之耕地

持主

育井佐市郎